

体験的な学習を通して見つめ直す自分とふるさと再発見の旅

栃木市立栃木西中学校

教諭（第3学年主任）

田中 弘子

教諭（第3学年副主任）

佐藤 宏行

I はじめに

II テーマ設定の理由

III 修学旅行までの（1，2年次）取り組み

- 1 第1学年 「総合的な学習に関わる校外学習」
- 2 第2学年 「社会体験活動（マイチャレンジ）」
「スキー宿泊学習」

IV 修学旅行の取り組み

- 1 修学旅行の日程
- 2 事前準備
 - （1）組織作り
 - （2）事前の活動日程
 - （3）事前活動の内容
 - ①実行委員会の活動について
 - ②クラス別行動と班別行動について
 - ③体験活動の計画について
 - ア コースや班が決まるまで
 - イ 実際に決まったコースと班の事前活動の内容
- 3 修学旅行の実際
 - （1）第1日目 クラス別・班別行動
 - （2）第2日目
 - ①午前：課題解決のための調査・体験活動
 - ②午後：班別自由行動
 - （3）第3日目 班別自由行動
- 4 事後指導

V 成果と今後の課題

I. はじめに

1 地域の特徴

本校は、栃木県南部の栃木市にある。創立は昭和22年であり、現在生徒数563名、学級数17、教職員数35名の中規模校である。本市への玄関口である栃木駅をかかえる本地域は、一部商業地区を含むものの、大部分は閑静な住宅街として発展している。半径3kmほどの本校学区には、4つの小学校の学区を含み、高校も5つの学校が集中している。また、県立公園の指定を受ける太平山や錦着山、清き流れの永野川や巴波川があり、自然に恵まれた環境にある。近くには病院や福祉施設、図書館や文化施設などの公共的な施設も多くあり、社会環境にも恵まれた地域である。

2 保護者や地域住民の特徴

本学区には自治会が19ある。子供たちと自治会との関係は、特に本校の町内別生徒会と通じて交流がある。数年前より、毎年夏休みを中心に自治会長と町内別生徒会が話し合いをし、ボランティア活動を実施するのが恒例になっている。始まった当初より年を追うごとに自治会の方々には子どもたちを生かして育てようとする意識が高まってきている。

また、保護者は全般的に教育への関心が高く、協力的である。PTA活動も活発で体育祭や西中祭（学校祭）はもちろんのこと、夏休みの奉仕作業などにも積極的に参加している。特に、2000年度には、本校独自の「西中親父の会」が発足し、学校の諸活動に父親が今までにも増して多数参加する姿が見られるようになってきた。授業にもゲストティーチャーとして参加していただいたり、環境整備面でも協力していただいている。

3 本校の特徴

本校では、教育目標に「進んで学ぶ生徒」「最後までがんばる生徒」「人のためにつくす生徒」を掲げ、「夢や希望を持ち、たくましく生きる生徒を育成する教育の創造」を目指して「地域に開かれ 地域に生きる学校づくり」を進める中でその推進に当たっているところである。

Ⅱ．テーマ設定の理由

1 目指す本校の教育から

本校においては、「夢や希望を持ち、たくましく生きる生徒を育成する教育の創造」を目指した教育を推進している。そのためには、「人間としての在り方・生き方の指導」を教育の中核に据え、地域とのかかわりを重視ながら「命の大切さを学ぶ講演会」（「命の講話集会」）、「夢を持つことの大切さ」を学ぶ講演会（「夢を語る講話集会」）や各種のボランティア活動を行い生徒一人一人が命の大切さに気付き、生きることを考える自分を見つめることをを通して「人間としての在り方・生き方の指導」につなげていきたいと考えている。

2 これまでの修学旅行との関わりから

これまで修学旅行においては、個人やグループごとに課題を設け、現地での体験を通じた活動を推進している。この課題については、京都や奈良の様々な特色とこれまでの総合学習との関わりから設定し、これまでの総合学習の発展や深化の機会としても位置づけている。

3 総合的な学習との関わりから

教育目標具現化のための学校経営方針として「地域に開かれ、地域に生きる西中」を掲げ、21世紀に生きる生徒を地域の人々とともに温かなまなざしの中で育てていくことを基本に据えている。

そのような意味から、本校の総合的な学習の時間においても地域を見つめ、地域の人々との触れ合いを通じた体験的な活動を推進している。現在の3年生においては1年次のテーマを「自分たちの地域を知る」とし、自分たちの住む町のことを調べる学習を通してふるさとを見つめさせた。2年次のテーマを「生き方づくり」として、地域の人々と協力を得ながら地域における職業体験を通して職業に対する見方・考え方を深めさせ、自分の生き方について考えさせ、自分を見つめさせた。3年次のテーマは「未来づくり」として、1，2年の学習を発展させながら自分の地域より視野をさらに広げ、多角的・多面的なものの見方をして自分の将来や地域の将来について建設的な意見を持てるように様々な活動を展開しているところである。

以上のようなことから、異郷の地において活動する修学旅行を通して、総合的な学習の時間に培った資質や能力を生かし「ふるさと」や「自分の生き方・在り方」を見つめ直す機会としてテーマを設定した。

その概念を図で表すと次のページのようになる。

本校の教育目標

目指す教育

夢や希望を持ち、たくましく生きる生徒を育成する教育の創造

地域に開かれ、地域に生きる学校づくり

人間としての在り方・生き方の指導

修学旅行のねらい

総合学習のねらい

異郷の地を通し
地域（ふるさと）や
自分の生き方・
在り方を
見つめ直す

「自分たちの地域を知る」
（1 学年）
「生き方づくり」
（2 学年）
「未来づくり」
（3 学年）

（発表テーマ）

体験的な学習を通して見つめ直す自分とふるさと再発見の旅

Ⅲ．修学旅行までの（１，２年次）取り組み

1 第１学年

総合的な学習に関わる校外学習 「班別活動」

（１）ねらい

自ら課題を見つけ、自ら学び、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育てる。学び方やものの考え方を身につけ、問題の解決や探求活動に主体的、創造的に取り組む態度を育て、自己の生き方を考えることができるようにする。

テーマ 「地域を知る」

・身近な課題であり、体験や教材が豊富な地域を題材にすることは、生徒の主体的な問題解決学習につながると考えられる。また、生徒は自らの活動を通して今日的な課題の理解を深めるとともに地域との共生を大切にし、それらの問題に積極的に関わっていかこうとする態度を育成する。

（２）実施方法

学年全体を６つのコースに分け、生徒各自がそれぞれ好きなコースを選択して、各コースごとに数人ずつの班を作り課題解決学習に取り組んだ。

地域の調査においては、校外での調査活動に行く前に各コースごとに地域の方を招聘し、地域の様子や専門的な話を聞く機会を設けた。そのことにより、調査内容も深まり調査結果も充実したものとなった。

環境コース・自然分野・歴史コース・福祉コース・国際理解コース・商業・観光コース

（３）実施後の成果

生徒は、各コースごとに数人ずつの班を作り、課題を設定しそれを解決するための活動計画に沿って調査活動や体験活動を行った。その結果地域の方々と触れ合いながらの活動も含め、調査内容も深まり調査結果もより充実したものとなった。

１年次でのこうした体験活動は、次年度の「社会体験活動」（マイチャレンジ体験活動）へつなぐものとなったと確信している。



第２学年のスキー宿泊学習の様子

社会体験活動：マイチャレンジ 「14歳 自分への挑戦」

- ・実施期間 平成14年11月11日（月） ～ 11月15日（金）
- ・受入先数 89カ所

1年次からのつながりから2年次では、「地域の産業・職業」ということで、職業体験のみならず、あらゆる分野での体験活動を実施した。

（1）ねらい

地域の方々とのかかわりを主とした社会体験活動を通して、生徒とともに生きる心や感謝の心等を育み、主体的に自己の在り方や生き方を見つめさせる。また、3年間を見通した継続的なかかわりを通して、地域の人々と生徒の関係を深化させ、生徒を育む取り組みを地域に浸透させることにより、地域における教育力の掘り起こしを行い、「心の教育」の一助とする。

（2）推進の特色

- ①具体策のひとつである「生徒一人一人が、指導ボランティアの方など自分たちに関わってくれる地域の方々との交流を深めながら、同時に地域の産業や職業への理解を深め、最後まで一生懸命取り組むことの大切さを実感させる」（最後までがんばる生徒）に重点をおいた。
- ②受入先の開拓には、本校PTAの組織の一つである「親父の会」の方々にお骨折りをいただいた。
- ③教育課程への位置づけは、総合的な学習の時間で扱い、実施5日間は30時間のまとめ取りをした。

（3）実施後の成果

- ①地域の方々と共に汗して働くことで、地域の方々と交流が深められ、同時に親の苦勞を感じ尊敬の念が生まれた。
- ②親が子どもの社会体験に興味関心を持ち、家庭での親子の対話が促進される効果があった。
- ③職業観を見直し、自己の将来像を自分なりに描くよい機会となった。
- ④地域の人が中学生の実態を今まで以上に詳しく知るとともに、中学での教育活動に対して興味を持つようになった。

（4）今後の課題

- ①協力事業所で礼儀作法や人との接し方など教えられたことが多い。それらをさらに生かしていく方法を考えるとよい。
- ②学校と事業所との連携だけでなく、保護者との関わりをさらに深められるとよい。
- ③離れた事業所への交通手段の在り方も考慮した上で、事業所を選ぶことも必要かと考えられる。

スキー宿泊学習

- ・実施期日 平成15年1月30日（木）～2月1日（土）
- ・場 所 福島県 「猪苗代スキー場」

（１）ねらい

- ①自分の言動に責任と自覚をもち、主体的に行動する意欲を高める。
- ②立志式を控え、将来の進路や目標達成のために何事も最後まで努力する態度を養う。
- ③雪国体験やスキー研修を通して、不自由さや寒さを乗り越えて最後までやり抜くことの大切さを身につけるとともに、生涯スポーツとしての知識や技術の向上を図る。
- ④集団生活を通して、規律・協力・友愛の精神を養う。

（２）実施にあたって配慮したこと

実施にあたっては次年度の修学旅行を意識し、生徒実行委員会を発足させる段階からできるだけ生徒の自主性を尊重すべく教師側は、あくまでも側面からの支援体制をとるよう心がけた。特にしおり作成においては、企画・内容の決定等、あくまでも生徒が主体となって各係ごとの打ち合わせを実行委員会のメンバーが中心となって入念な話し合いを行い、教師の指導助言のもとに行わせた。

（３）実施後の成果

宿泊学習直後に立志式を控えていたこともあり、その準備も大変忙しいスケジュールの中で進められた。とにかく「あくまでも生徒の主体性を尊重していく」という教師側の基本姿勢を貫きながら、宿舎内での過ごし方や持ち物等細かい決まりについても、十分検討した上で決定された。このことが次年度の修学旅行にもいかされるということも意識してか、生徒実行委員会も中学校における初めての宿泊学習に「ドキドキ・ワクワク」といった期待とも緊張ともとれるようなとてもよい雰囲気の中で実施された。各係の仕事内容を検討する場面でも実行委員がチーフとなり、教師の手をわずらわすことなく互いに意見を出し合いスムーズに決定した。

このようにして準備段階より生徒主体の実行委員会であったが、実際の場面でも実行委員を中心に、また、スキー実習においてもそれぞれの班長をリーダーとして生徒たちは、積極的に活動することができた。それに加えて、2月に実施された行事である「立志の決意発表会」も生徒の実行委員を中心に、映像をふんだんに使った宿泊学習の報告会を兼ねた実のある発表会となった。初めは、多少の心配があったが生徒を信じて行った結果が次年度につながるとてもよい方向づけとなったように思う。

スキー宿泊学習

- ・実施期日 平成15年1月30日（木）～2月1日（土）
- ・場 所 福島県 「猪苗代スキー場」

（１）ねらい

- ①自分の言動に責任と自覚をもち、主体的に行動する意欲を高める。
- ②立志式を控え、将来の進路や目標達成のために何事も最後まで努力する態度を養う。
- ③雪国体験やスキー研修を通して、不自由さや寒さを乗り越えて最後までやり抜ことの大切さを身につけるとともに、生涯スポーツとしての知識や技術の向上を図る。
- ④集団生活を通して、規律・協力・友愛の精神を養う。

（２）実施にあたって配慮したこと

実施にあたっては次年度の修学旅行を意識し、生徒実行委員会を発足させる段階からできるだけ生徒の自主性を尊重すべく教師側は、あくまでも側面からの支援体制をとるよう心がけた。特にしおり作成においては、企画・内容の決定等、あくまでも生徒が主体となって各係ごとの打ち合わせを実行委員会のメンバーが中心となって入念な話し合いを行い、教師の指導助言のもとに行わせた。

（３）実施後の成果

宿泊学習直後に立志式を控えていたこともあり、その準備も大変忙しいスケジュールの中で進められた。とにかく「あくまでも生徒の主体性を尊重していく」という教師側の基本姿勢を貫きながら、宿舎内での過ごし方や持ち物等細かい決まりについても、十分検討した上で決定された。このことが次年度の修学旅行にもいかされるということも意識してか、生徒実行委員会も中学校における初めての宿泊学習に「ドキドキ・ワクワク」といった期待とも緊張ともとれるようなとてもよい雰囲気の中で実施された。各係の仕事内容を検討する場面でも実行委員がチーフとなり、教師の手をわずらわすことなく互いに意見を出し合いスムーズに決定した。

このようにして準備段階より生徒主体の実行委員会であったが、実際の場面でも実行委員を中心に、また、スキー実習においてもそれぞれの班長をリーダーとして生徒たちは、積極的に活動することができた。それに加えて、2月に実施された行事である「立志の決意発表会」も生徒の実行委員を中心に、映像をふんだんに使った宿泊学習の報告会を兼ねた実のある発表会となった。初めは、多少の心配があったが生徒を信じて行った結果が次年度につながるとてもよい方向づけとなったように思う。

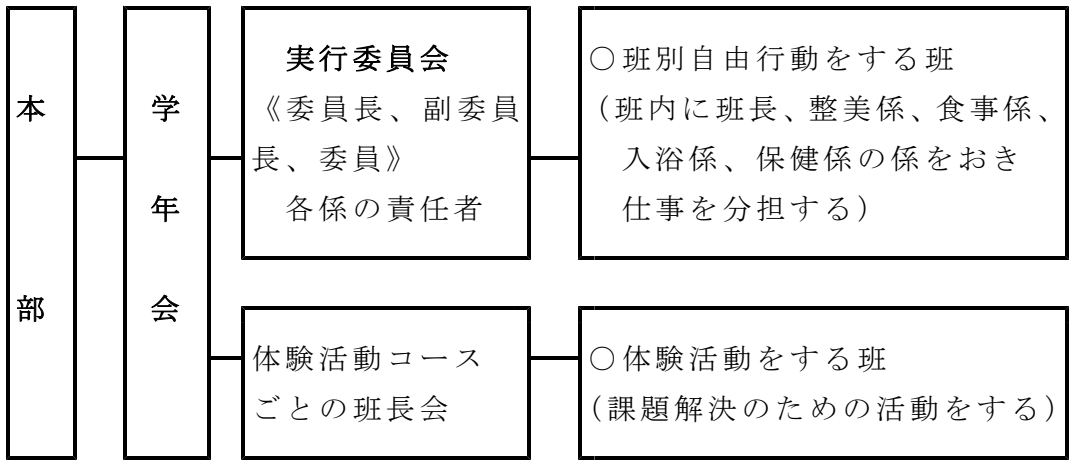
IV. 修学旅行の取り組み

1 修学旅行の日程

- 第1日目 JR 栃木駅集合（5：30）→小山駅→東京駅→京都駅（10：53）
→【奈良方面 クラス別・班別自由行動】→京都・宿舎着（18：30）
第2日目 宿舎発（7：45）→【体験活動】→宿舎着（12：30）
宿舎発 → 【班別自由行動】→宿舎着（18：00）
第3日目 宿舎発（7：45）→【班別自由行動】→東本願寺集合（11：30）
京都駅発（12：27）→東京駅→（バス）→栃木駅（18：00）

2 事前準備

（1）組織作り



（2）事前の活動日程

1	月 日	内 容
2	4月17日（木）	実行委員会（組織決定）、スローガン
3	4月18日（金）	個人ごとの課題設定
4	4月22日（火）	体験活動のコースごとに班分け
5	4月24日（木）	体験活動コースごとの事前調査、行動計画検討 実行委員会（各係ごとに仕事内容検討）
6	4月30日（水）	学年会議（各係からの原案検討）
7	5月 1日（木）	実行委員会（しおりの原案決定）
8	5月 2日（金）	体験活動コースごとの事前調査、行動計画決定 班別自由行動計画の検討
9	5月 6日（火）	班別自由行動計画の検討
10	5月 7日（水）	しおりの原稿締め切り
11	5月 9日（金）	班別自由行動計画案の決定
12	5月12日（月）	しおり印刷完了
13	5月13日（火）	しおり綴じ込み、係ごとに読み合わせ
14	5月20日（火）	しおりの説明（クラスごと）、質問

15	5月22日(木)	しおりの説明(学年全体)、質疑応答
16	5月27日(火)	コースごとの活動最終確認、事前指導
17	5月29～31日	修学旅行

(3) 事前活動の内容

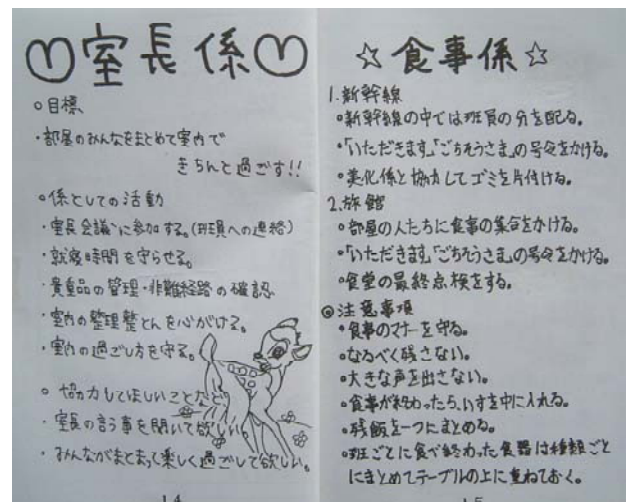
① 実行委員会の活動について

修学旅行実行委員は各クラスより男女2名ずつを選出し、学年で20名の組織にした。さらに、その中で委員長1名と副委員長2名を選出し、それぞれ各係の責任者となった。実行委員会では、スローガン・学年目標・生活面でのきまり・各係ごとの仕事内容などの検討を行った。実行委員が検討した内容はすべて学級会や係会議に下ろし意見や質問を受け、それを持ち寄って学年の先生の意見なども聞き、いろいろなきまりや細かい仕事内容や分担などを実行委員会で決定した。しおりの作成も実行委員会の係ごとの責任者が担当して行った。

◎ 修学旅行スローガン

行きは友達 帰りは親友 心に刻もう古都の思い出

◎ 生徒が作成したしおりの一部



② クラス別行動と班別行動計画について

1日目の午後は東大寺と奈良公園を全体で見学した後に、奈良市近辺のクラス別・班別行動を計画した。旅行業者より、行動プランの案を5つ提示してもらい学級ごとに相談して行動計画を決めた。

2日目の午後と3日目の午前中は京都市内でクラスの班別行動を計画した。行動する班は男女別に4～6名の班をクラス内で編成し、それぞれの班内で活動計画表を立てさせた。

③体験活動の計画について

ア コースや班が決まるまで

2日目の午前中に6つのコースごとに体験活動を計画した。これは総合的な学習の時間との関連があり、事前に学年集会を開いて修学旅行のねらい・総合的な学習の時間のねらいや修学旅行で体験学習をやる意義を話し、昨年までの実践から考えられる体験活動のコースの例を説明した。そのあと、個人ごとに課題を設定させ、同じような課題ごとにコースに別れ、その中で班を作った。この班は、クラスや性別に関係なく編成したが班を作らず個人で活動するところもあった。そして、班ごとに、具体的な活動場所や行動計画を考えさせ、事前の調べ学習も実施した。

◎修学旅行のねらい

- 1) 世界に誇る奈良と京都の長い歴史や文化・伝統に直接触れたりそこで生活する人々と交流することにより、日本の歴史や文化・伝統への深い理解と関心を高め、愛国心と日本人としての誇りをもたせる。【進んで学ぶ生徒】
- 2) 奈良・京都の地域を総合的な学習の観点から調査・体験活動を実施することにより、自らの生活や地域を見つめ直させる機会とする。【進んで学ぶ生徒】
- 3) 集団生活や体験活動を通して、自ら考え行動し、目標に向かって粘り強く最後までやりぬく態度を育てる。【最後まで頑張る生徒】
- 4) 小さな親切（ボランティア活動）の実践により、旅行地での人と人との触れあいにより、心に残る温かな修学旅行にする。【人のためにつくす生徒】

◎総合的な学習の時間のねらい

- 1) 自ら課題を見つけ、自ら学び、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育てる。
- 2) 見学や調査、実験・観察・話し合い活動などを通して、学び方やものの考え方を身に付け、問題の解決や探求活動に主体的、創造的に取り組む態度を育てる。
- 3) 地域の一員としての自覚や誇りを持ち、生活の主体者としての価値のある自己の生き方を考えることができるようにすること。

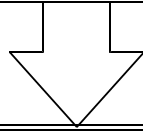
◎総合的な学習の時間と修学旅行との関連

1 年生：「自分たちの地域を知る」

歴史、観光、国際理解、福祉、産業、環境の 5 コースに別れ、自分が設定した課題に対して調査・体験活動をし、ふるさとを見つめる。

2 年生：「生き方づくり」

5 日間のマイチャレンジを中心に活動。それをもとに自分の生き方について考え、自分を見つめる。



3 年生：「未来づくり」

修学旅行での体験活動をもとに、自分やふるさとのあり方を考える。

修学旅行で体験活動をする意義

★いろいろな人との交流を通して、自分の価値観の変容やこれからの将来をどう生きていくか考える。

自分探し・生き方の変容

★京都と栃木市を比較することで、自分の住む地域が今後どうあるべきかを考える。（地域への提言）

産業、観光、福祉、国際理解、環境、平和、歴史など

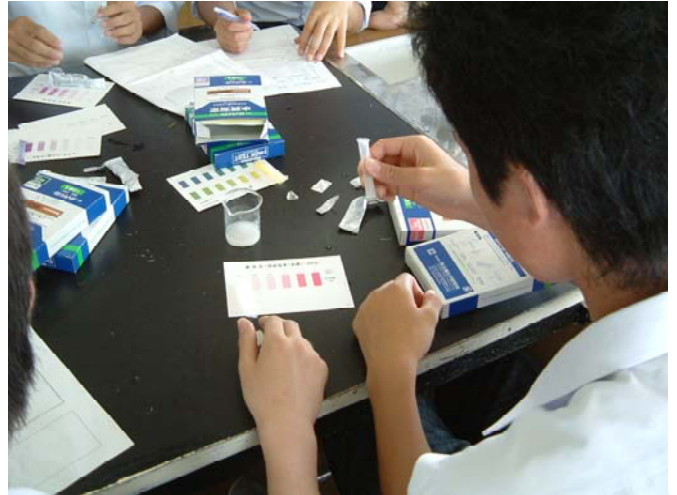
【体験活動をするコースの例】（昨年までの実践から考えられること）

- ・ 環境コース ： 京都のゴミ問題、地球温暖化防止京都会議の内容の調査
琵琶湖博物館にて調査、琵琶湖の水質調査
- ・ 商業コース ： 錦市場（最大 50 名）にて体験（アーケード街での職場体験）
- ・ 国際理解コース： 国際交流会館、ガイドさんと一緒に京都の町を回る
- ・ 平和コース ： 立命館大学国際平和ミュージアムにて調査
- ・ 歴史コース ： 京都市景観・まちづくりセンターにて調査・体験
- ・ 福祉コース ： 車いすの方と一緒に町を回る。
- ・ その他のコース： 各自が自分のやりたい課題を設定する

イ 実際に決まったコースと班の事前活動の内容

環境コース

環境コースでは、事前にパックテストを使い地域の水質調査やマツの葉を使った大気汚染の状況調べを実施した。また、実施したパックテスト（COD、pH、BCG、NO₂、NO₃、PO₄ など）の意味についてはインターネットや図書館の資料から調べた。さらに、琵琶湖博物館への行き方や博物館で聞きたい質問などを考えた。



（パックテストの様子）

商業コース

・体験活動計画書の作成

2年時の職場体験活動を振り返ったり、栃木市の商店街の様子などを話し合ったりしながら、栃木と京都の商店街の違いを発表し合い、計画書にまとめた。

・事前の調べ活動

計画書に従い、体験できる商店が決められた。商店街のホームページなどを閲覧して調べ学習を行った。

国際交流コース

国際理解コースでは、13人の生徒が3つの班に分かれ、国際理解について自分達の研究テーマを決定することから活動が始まった。1班のテーマは、京都が国際都市として多くの留学生を海外から受け入れていることを調査のきっかけとし、このことに関するデータの収集や留学生受入のためにどのような団体や活動があるのかを調査し、また、街頭でのインタビューに向けての質問（英語）の準備を進めた。

2・3班は、観光都市としての京都が、観光に訪れる海外の人々にどのようなサービスを提供しているかを現地調査を通して調べるため、名所旧跡を方面別に分担し効率よく訪問するための計画を立て、どのような資料を収集してくるかを考えた。

平和コース

平和コースでは事前活動を行う前に、調査活動の一連の流れを示した。調査活動の一連の流れは以下の通りである。

①戦争体験記を読み、戦争に関する予備知識を得る。（事前）②立命館大学国際平和ミュージアムにて調べ学習。（修学旅行中）③事前活動や国際平和ミュージアムで学んだことをまとめる。（事後）④栃木での戦争体験の話聞く。（事後）⑤一連の活動から、「21世紀を迎え自分たちが平和のためにできることは何か」、「自分たち

が栃木市へ向けた平和に関する提言」を導き出す。

平和コースの事前活動は、グループテーマ設定以前に「戦時体験を伝える」という体験記を読み、感想文を書くとともに戦争に関する予備知識を得た。そこから自分たちが何を調査したいのかというテーマ設定に結びつけた。そして、グループテーマ設定後に事前に何を調査しておくべきかを考え、それについての調査をした。また、国際平和ミュージアムへの行き方なども事前学習として行った。

歴史コース

それぞれのテーマをもとにグループ分けをし、そのグループごとに京都での調査活動内容を検討し、どこでどんな活動ができるか計画を立てた。幕末の日本というテーマの班は新撰組に関する場所はどこか、京都の文化をテーマにした班は京文化の中で実際に体験ができるものは何か、それはどこにあるかなど事前に調査し、目的地を決定した。

食文化コース

食文化のコースでの活動を希望した生徒が41名いた。テーマごとに8班を編成し、各班ごとに活動計画を進めた。各グループは「つけもの」「和菓子」「お茶」「おばんざい」の四つに分かれ、体験活動を中心とした内容を考えさせ、京都の人々との交流を図りながら学習活動ができるように工夫した。食文化という大きなテーマで栃木市と京都の比較をすることで、食文化が地域に果たす役割を見つめ、地域への提言としてまとめることを目指した。

・事前活動のまとめ

つけもの～京都の漬け物の種類などを調べ、歴史や製造方法については現地で調査をすることにした。京都での見学・調査場所を「土井しば漬け本舗」に決定し、活動計画を立てた。

和菓子～京都の和菓子作りを体験することを通して、食文化の伝統を考えていこうとした。体験を受け入れてくれる事業所や和菓子の資料館などを探し、活動計画を立てた。また、伝統的なお菓子に対する地元の人の意識を調査するアンケートを実施するため、その質問内容を考えた。

お茶～お茶の種類などを調べ、京都では茶道資料館での情報収集やいくつかのお店を調査対象とし、和菓子とお茶の関わりについての活動計画を立てた。

おばんざい～京都の郷土料理の歴史などのついて調べ、京都で実際に食品売り場などをどのように見て歩くか、その活動計画を考えた。

＜ 計 画 書 の 例 ＞

修学旅行 体験活動の計画書	
コース名	平和 コース 2 班
班 員 (4 名)	班 長 ー 班 員 ー
テーマ	例題：…の活動を通して、生き方の実容や栃木市への歴史を調べる 戦争の苦痛を知る活動を通して、平和に関する栃木市 市民への意見を調べる
事前学習	『事前に調査、体験をしておくことは？』 栃木市において… 京都の事前調査は… …と戦争に関する場所 …とあるかを調べる。 戦争は戦争と歴史、戦争での生活 …とあり、… …とあるかを調べる。 戦争は戦争と歴史、戦争での生活 …とあり、… …とあるかを調べる。 戦争は戦争と歴史、戦争での生活 …とあり、…
具体的な 活動内容 や 活動場所	『どこで、どんな活動をするか？』 生命館大学国際平和ミュージアム 栃木資料などから戦争中の生活について詳しく 調べる。

修学旅行 体験活動の計画書	
コース名	歴史 コース 1 班
班 員 (4 名)	班 長 ー 班 員 ー
テーマ	例題：…の活動を通して、生き方の実容や栃木市への歴史を調べる …の文化を調査し、改めて栃木と …を知ろう！ …の文化を調査し、改めて栃木と …を知ろう！
事前学習	『事前に調査、体験をしておくことは？』 栃木市において… 京都の事前調査は… …と戦争に関する場所 …とあるかを調べる。 戦争は戦争と歴史、戦争での生活 …とあり、… …とあるかを調べる。 戦争は戦争と歴史、戦争での生活 …とあり、… …とあるかを調べる。 戦争は戦争と歴史、戦争での生活 …とあり、…
具体的な 活動内容 や 活動場所	『どこで、どんな活動をするか？』 …の文化を調査し、改めて栃木と …を知ろう！ …の文化を調査し、改めて栃木と …を知ろう！ …の文化を調査し、改めて栃木と …を知ろう！

3 修学旅行の実際

(1) 第1日目：クラス別・班別行動

関修委のA日程で実施したので、栃木駅に5時30分に集合し、実行委員会による出発式を実施した後、JR両毛線で小山駅に行き、小山から新幹線「なすの234号〈自由席〉」に乗車し東京へ向かう。京都駅には10時53分に到着した。京都駅からクラス別に5台のバスに乗り、第一の見学地の東大寺へ向かう。ここで、クラスごとの集合写真を撮り、その後はクラス別・班別行動を実施した。事前にクラスごとに話し合った計画通りに、奈良公園を班ごとに散策するしたあとに法隆寺へ向かうクラスが4クラスと、興福寺を見学したあとあとに宇治平等院へ向かうクラスが1クラスあった。東大寺の大仏の大きさに驚く生徒や法隆寺のガイドさんの説明にうなづく生徒が数多く見られた。5クラスとも、ほぼ時間通りに行動することができ無事に宿舎に戻った。夜の室長・班長会議では2日目に実施する午前中の体験活動と午後の班別自由行動についての最終確認がなされた。



(2) 第2日目

①午前中：課題解決のための調査・体験活動

環境コース

	8:00	9:00	10:00	11:00	12:00	13:00
宿 舎 発			琵琶湖博物館にて調査、体験 琵琶湖にて水の採取			
						宿 舎 着

宿舎を班ごとに8時に徒歩で出発し、近くの地下鉄（京都市役所前）に乗り山科駅に向かう。山科駅でJRに乗り換え草津駅で下車をし、そこから路線バスで琵琶湖博物館へ行った。琵琶湖博物館ではあらかじめ用意していた質問を学芸員の人にしたり、琵琶湖の水質や住んでいる生物などを展内にある展示物で調べた。また、近くの琵琶湖の畔でいろいろな場所の水を採取し、学校へ持ち帰った。



・生徒の感想

5月30日に行われた修学旅行に総合学習班別行動。私たち環境コースでは琵琶湖の水質調査に行きました。琵琶湖に着き、早速、パックテストに使う水を採取しました。その後、博物館に行って琵琶湖についていろいろなことを学びました。

短い時間での体験でしたが、琵琶湖やそこに生息する生物の生態について知ることができました。私はこの体験を通して、今後も栃木市の水質を調べこれからどういう風に環境に気を付けたらいいのか考えていきたいと思います。



店頭にて商品整理（米店）

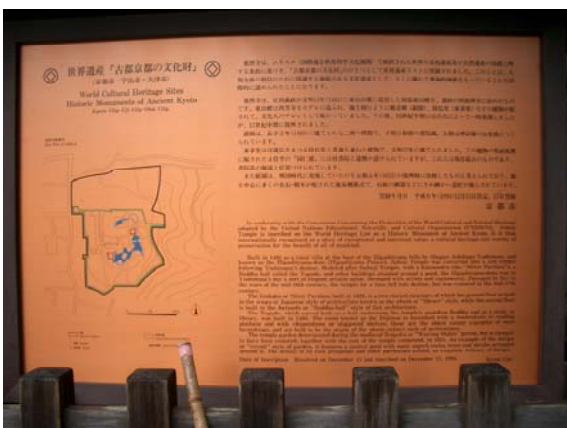


店員さんの指導を生かして（惣菜店）

国際交流コース

	8:00	9:00	10:00	11:00	12:00	13:00
宿	1 班	京都市国際交流会館	→	街頭インタビュー（新京極）		
舎	2 班	京都駅 → 三十三間堂	→	東本願寺 → 西本願寺 → 東寺		
発	3 班	京都駅 → 八坂神社	→	泉通寺道	→	新京極

1 班の活動は、事前の調査において見つけた京都市国際交流会館の訪問である。この会館は京都市国際交流協会が留学生や在日外国人がより良い生活をし、また、日本人とこれらの外国人がお互いに理解し合うために交流する拠点として運営されているものである。訪問に際し職員の方へのインタビューの機会を得て、今日まで京都市が留学生を受け入れてきた経緯をいろいろな角度から質問し、交流の歴史や京都に住む留学生や外国人の数・出身地、提供するサービスの内容や課題など貴重な情報を得ることができた。もう一つの活動として、街頭で外国人へのインタビューを実践した。京都での生活について感じていることや期待すること、外国人としてどのように国際理解や交流に努めたいかを聞いてみた。時間の関係で多くの人にインタビューすることはできなかったが、調査活動の成果と共に、生徒自身の国際交流の体験として今後に生かされることを期待したい。2・3 班は名所旧跡を巡り、各観光地が海外からの人々にどのように開かれて



いるかを現地調査した。2 班は京都駅を出発の後、三十三間堂、東本願寺、西本願寺、東寺、また、3 班は京都駅から八坂神社、泉通寺道、新京極などを訪れ、観光客の人数やパンフレットや説明看板がどの程度外国語で書かれているかなどを調べ写真に収めた。途中、班員同士がはぐれ計画通り訪問できなかったり、写真撮影禁止の所があるなど多少のトラブルもあったが、3～4 時間の活動時間を生徒は有意義に過ごすことができた。

平和コース

8:00	9:00	10:00	11:00	12:00	13:00
宿 舎 発		平和ミュージアムでの 調査、インタビュー			宿 舎 着

8時30分に宿舎を出発し、10時～12時まで立命館大学国際平和ミュージアム（以下、平和ミュージアム）にて、それぞれのグループテーマに沿って調査活動を行った。

平和ミュージアムに到着すると、ボランティアガイドの方が平和ミュージアムがつけられた理由や入口にある彫刻（わだつみの像…右写真参照）について説明してくださった。



続いて、地下1階の展示コーナーをすべて案内・説明してくださった。生徒たちは、生で聞くボランティアガイドの方の話に熱心に聞き入っていた。すべての説明終了後は、グループに分かれテーマに沿った調査活動を行った。そ



して、見学最後に展示コーナーにあるミニシアターで戦争に至るまでの経緯から今の平和を取り戻すまでの過程を説明した映画を鑑賞した。どのグループも思っていたよりテーマに関する調査を終了することができ、予定より早く宿舎に戻ることができた。宿舎へ戻るバスの中では、平和を実感する会話が聞かれた。

・生徒の感想

私たち、平和コースが行った、立命館大学国際平和ミュージアムには、戦争のことなどが詳しく展示されていて、初めて知った事がたくさんありました。戦場の兵隊たちだけでなく、みんな戦争のために、大きな被害を受けて、「二度とこ



んながあってはならない」と、思ったけれど、まだ戦争は、なくなっていないし、世界には、飢えや病気、貧しさや差別などで苦しんでいる人がたくさんいます。戦争がなくなったらみんなが暮らせる世界になってほしいです。

歴史コース

	8:00	9:00	10:00	11:00	12:00	13:00
宿 舎 発		京都市歴史 資料館	まちづくり センターでの インタビュー	京町屋、京都 町並みの散策		宿 舎 着

それぞれのテーマをもとに資料館やまちづくりセンターを訪れ、インタビュー、体験活動等を行った。幕末の日本というテーマの班は壬生寺、霊山博物館等を訪れ、新撰組についての理解を深めた。また、京都の文化をテーマにした班は古代友禅苑、西陣織会館、京扇堂を訪れ、友禅染や京扇子づくりを体験したり、インタビュー等の調査活動を行った。さらに、上記の例のグループは京都まちづくりセンターを訪問し、京都の町屋とその町並みを残すためにどのような工夫がなされているか等のお話を伺い、自分達の住む蔵の町栃木市との比較を行った。

・生徒の感想

京都は厳しい規制をしることにより、美しい景観を保っていることがわかった。また、京都のまちづくり事業についても詳しく学ぶことができ、古都として栄える京都の秘訣がわかったような気がする。栃木には京都ほど厳しい規制はないが、様々なまちづくり事業が行われており、また古い歴史もある。蔵の街栃木の歴史とその町並みを残すためにも、栃木市にも景観を守る規制を増やしたり、さらに街作り事業を拡大する必要があると思う。そして私たち一人一人が住みよい町にするために行動をしていくことが大切だと感じた。



京都まちづくりセンターにて

食文化コース

		8:00	9:00	10:00	11:00	12:00	13:00
班	班 長		活 動	予 定			
1 漬 け 物 5 人	M・F		見 学 土井しば漬け本舗		調 査 新京極		
2 和 菓 子 5 人	Y・F		調 査 こなもんじゃ	見 学 ギルトハウス		調 査 おたべラウンジ	
3 漬 け 物 5 人	A・I		見 学 土井しば漬け本舗		調 査 新京極		
4 お 茶 5 人	M・S		見 学 茶道資料館	調 査 伊勢丹七條甘春堂本店		調 査	
5 和 菓 子 6 人	K・N		体 験 菓子総本店よし廣		調 査 おたべラウンジ		
6 和 菓 子 6 人	M・F		ア ン ケ ー ト	体 験 老松			
7 和 菓 子 4 人	M・M	調 査 新京極		見 学 博物館		調 査 寺町通り	
8 おばんざい 5 人	S・T	店 調 査 三ツ葉		ひいらぎ亭	高 島 屋		

見学体験活動場所

- ・ 土井志ば漬け本舗 0 7 5 - 7 4 4 - 2 3 1 1
- ・ 京菓子「老松」 0 7 5 - 4 6 3 - 3 0 5 0
- ・ 「よし廣」 0 7 5 - 8 1 1 - 5 5 5 4
- ・ 京菓子資料館 0 7 5 - 4 3 2 - 3 1 0 1

・ 活動の実態

つけもの～京都の「土井しば漬け本舗」の工場を見学させてもらい、漬け物の製造方法について、一連の流れを実際に見ることができた。担当者の方から説明していただき、生徒たちからの質問にも答えていただいた。

和菓子 ～ 和菓子作りにチャレンジする。生徒たちは、お店の担当者の方に教えていただきながら実際に和菓子を作ってみた。それぞれが好きなように形を考えて、思い思いのお菓子を作りを楽しみ、伝統的な和菓子の作り方などを学んだ。その他に8時30分頃から1時間程度、京都の街頭に立

ち、30人くらいの人にアンケートを実施した。時間帯が通勤時間に重なったことや、早い時間に行ったため予定した人数まではいかなかったが、地元の方と交流しながら活動し、アンケートに協力をいただいた。その他には「京菓子資料館」で京菓子の歴史や特徴についての説明を聞いたりした。

お茶 ～ 「茶道資料館」を訪問した。お茶について書かれた巻物や昔使われた急須などの展示品を見て、お茶の歴史について学んだ。また実際にお茶の飲み方や和菓子の食べ方を体験してきた。また、お茶（抹茶）を使った商品がどのくらいあるかを地元の手デパートで調査し、思っていた以上にたくさんの商品があることが分かった。

おばんざい～ 京都のデパート内にある「おばんざい」コーナーに行き、どんな種類があるか実際に調べた。販売員の方々に調理の方法や工夫点などを聞いたり、試食をしたりして調査した。はもを使った料理が京都の特徴であることがわかった。



和菓子作りの様子



「土井しば漬け本舗」の工場見学

・生徒の感想

「京菓子資料館」に行ったとき「桜の和菓子に名前を付けるとしたらどんな名前を付けますか。」と聞かれました。しかし、私たちはうまく答えることができませんでした。これから学習を進めていくうえで、「和菓子」の名前の由来を考えたり、そこにこめられている思いを考えたりしていきたいです。（女子）

漬け物の歴史や由来を調べたり、おいしい漬け物を食べたりすることができて良かったです。京都の「土井志ば漬け」本舗に行って、京漬け物は一千年前からずっと変わらず、人々に好まれているということがよく分かりました。それに、漬け物をつくるにはいろいろな人たちの努力も必要なんだと思いました。（女子）

京都のおばんざいはどれもおいしく、材料をうまく生かした調理方法がたくさんあることが分かりました。地元の方にとっても親切にさせていただいて、とてもうれしかったです。（女子）

②午後：班別自由行動

12:30	13:30	17:30
班の組み 替えの 待機時間	班別の自由行動	宿舎着 旅館にて 荷物整理など

12:30～13:30までの1時間は宿舎において、午前中に実施した体験活動ごとのグループから午後に実施するクラス中の班別自由行動のグループへの班の組み替えをする時間とした。午後の班は、各クラス男女別での8班の計40班になるが、全部の班が揃うまで待機するのではなく班ごとの人数が揃ったら、それぞれ京都の街中へ出発した。

京都を散策するコースは、4月から、班ごとに行ってみたい寺院や神社、博物館などを挙げてコースを組み立てた。いろいろなコースの多くは、金閣寺～北野天満宮～新京極という流れが見受けられた。また、行き先によってバスをたくさん利用する班は、各自、1日乗車券を購入した。限られた時間を有意義に使うために、場所や行き方（移動にかかる時間、料金）などを細かく調べておいたが、当日、立てたコースを回ってみると、「本能寺～平安神宮～青蓮院～八坂塔～二条城へ行く」などというように、たくさんの名所を回る班は、ゆっくり見学できずに駆け足で回ったのが現状だった。

京都での班別自由行動は、道に迷ったり、計画どおりに行かなかった班もあったが、遅くなりそうな班は教師とまめに連絡を取りあい、数班が若干集合時間に遅れたが、無事終わる事ができた。

平成15年度 修学旅行							7 班	
② 科目、③ 科目 別に行動の計画								
No.	1	2	3	4	5	6		
目的地	ホテル杉屋	京都岡崎	清水地蔵	三三平坂	ホテル杉屋			
拝観料・昼食代	X	1000 円	未定	おみやげ代	円	円		
見学所要時間	30 分	30 分	90 分		分	分		
見学開始時刻	13:00	14:08	15:09	16:39				
徒歩時間	5 分	2 分		15 分	分	分		
乗車費・停留所	河原町駅	清水駅前	清水通					
乗車時刻	13:13	14:14	17:06					
交通機関	阪神バス	250 市バス	徒歩	阪神バス				
所要時間	20 分	15 分	15 分	分	分	分		
乗車費・停留所								
下車時刻(乗車)								
乗車時刻(乗車)								
交通機関								
所要時間	分	分	分	分	分	分		
(乗車)・停留所	京都駅前	清水駅前	清水地蔵					
下車時刻	13:33	14:29	17:27					
徒歩時間	5 分	10 分	10 分	分	分	分		
目的地到着時刻	13:38	14:39	17:37					

1	2	3	4
ホテル杉屋	金閣寺	小野川清宮	東本願寺
X	始	未定	円
20 分	30 分		
8:00	9:05	9:56	
5 分	5 分	5 分	
河原町駅	金閣寺前	小野川清宮	
8:09	9:16	10:10	
阪神バス	250 市バス	阪神バス	
35 分	5 分	30 分	

生徒が作成した
2日目（午後）と
3日目の班の行動計画

(3) 第3日目：班別自由行動

3日目の午前中も2日目の午後と同様に班別自由行動を実施した。最終日にも自由行動を実施するのは本校としては初の試みであり、不測の事態には集合時刻に間に合わないのではと不安の意見もあったが、生徒の主体性と自律性を信頼し実践することを決めた。

実際に計画の段階から多くの課題が出た。2日目の午後には活動の時間が約5時間

あり、最後には宿舎（出発地）に戻るだけであるから計画も立てやすい。教師側も帰着時刻の遅れがあったとしても、指導して後に生かせばよいと覚悟することができた。しかし、3日目の活動時間は8時～11時のわずか3時間であるので、同じ半日という感覚で計画を立ててしまったせいか、やや無理のあるものが見られた。更に、最後の集合場所の東本願寺は、京都駅前とはいえ事前に場所を知らない生徒がほとんどである。これに不測の事態が重なり集合が遅れると帰途に大きな影響が出ることになる。よって、帰りの新幹線の時刻から逆算し、集合の時刻を早めに設定し、活動時間が短いことを周知させる指導を徹底した。

生徒たちは、早い時間から見学できる場所や比較的遠い所を計画の最初に位置づけたり、集合場所に順に戻る移動の計画を立てるなど工夫改善が見られた。訪問地も1～2カ所の班がほとんどであったが、生徒は京都で過ごせる最後の時間を活動的に過ごした。中には、東本願寺への到着が早すぎる慎重な班があったり、一方で、帰りの新幹線で食べる食料の調達に余念がない班など、それぞれの行動に生徒の性格が見事に反映されていた。結果として、集合に遅れた班は1つもなく、全学級が東本願寺の本堂をバックに集合写真を撮るだけのゆとりがあった。

帰路の列車やバスの中でも十分に楽しく盛り上がり、栃木駅に到着したときには多くの保護者に迎えられ、忘れられない思い出を胸に家路についた。



4 事後指導

（1）プリントによる反省としおりの巻末にある小さな親切の記録や感想の整理

修学旅行から戻ってきた後の学級指導において、2日目の午前の体験活動は充実したものになったか、2日目の午後と3日目の班別自由行動では予定通り進められたか。生活の決まりでよく守れた点や改善点、小さな親切の記録などを記録させた。その結果、2日目の午前中に行った体験活動はほとんどの生徒が、充実した活動だったと答えていた。また、小さな親切の記録では、バスの中でお年寄りに席を譲ることができたとか、班の人が調子悪いときにやさしく声をかけられたと記録されていた。本校では、ボランティア活動の日常化を図る意味でハートフルデーの活動などを行っているが修学旅行でも小さな実践ができた。

（2）調査・体験活動で学んだことを通して報告書の作成と地域のさらなる調査

2日目の午前中に行った調査・体験活動をまとめた後、事後の総合的な学習の時間において、6つのコースごとに地域の調査・体験活動を行った。そして、修学旅行で学んだことと自分の地域の実態を比較し、これからの自分の在り方や地域の未来への提言を含めた修学旅行の報告書を一人一人作成させた。作成したものを、西中祭（学校の文化祭）で展示した。

(3) それぞれのコースごとに行った地域の調査・体験活動

環境コース

- ・ 地域を流れる河川（永野川、うずま川）の水質調査と琵琶湖の水質の比較
- ・ 京都市内のマツの葉と地域のマツの葉の気孔の汚れの比較
- ・ 家庭からの排水（米のとぎ汁、風呂の残り水など）の水質検査

商業コース

- ・ 栃木市の商店街の調査や取材
- ・ 錦市場の体験活動との様子と2年次の職場体験との比較

国際交流コース

- ・ 栃木市国際交流会館での調査と市内の外国人受け入れの現状調査

平和コース

- ・ 錦着山にある戦争慰霊碑での調査
- ・ 戦争体験者（沖縄戦の「ひめゆり学徒隊」生存者）による講話集会

歴史コース

- ・ 蔵の町栃木市の町並みの様子の調査

食文化コース

- ・ 市内にある漬け物などの調査

◎生徒のまとめ（自分を見つめ直すことや地域への提言）より（抜粋）

京都は厳しい規制をしることにより、美しい景観を残していることがわかった。また、京都の町づくり事業についても学ぶことができた。栃木には京都ほど厳しい規制はないが、様々な町づくり事業が行われている。栃木にもよい歴史がある。これらの歴史をより長く残すためにも景観に関する制度を、もっと増やすべきだと思う。また、私たちの中でも、一人でも多くの人がこの栃木を好きになり、ほんの小さなことでもいいから行動していくべきではないだろうか。今回の学習では、京都の町づくりにふれ、古都として栄える京都の秘訣を知った。たくさんの京都の人とふれあうことができた。と同時に、この栃木について見つめ直すことができた。今回の学習を生かし、私たちがこの栃木をより住みやすい町にしていこうと思う。（歴史コース：女子）

職業体験を通して、あいさつの大切さを改めて痛感した。2年生の時も職場体験学習を通して、働くことの大変さや働く人たちの意気込みを感じたが、京都の錦市場での体験も時間は短かったが、交わすあいさつによって心が通じ合っているように感じた。私も、今まで以上にあいさつがしっかりできる人になっていこうと思った。

（商業コース：男生徒）

京都と栃木の店を比較したところ、京都は、店が明るく店員も面白いのがよかった。栃木も負けていなかった。短所は、京都は店がたくさん並んでいて見つけづらかった。栃木は、道路際にあって買いづらいところが感じられた。(商業コース：男生徒)

京都の店では、「阪神タイガースが勝った次の日は、うなぎが 200 円引きなどの工夫をしてお客をひきつけていました。また、新鮮な魚をその場でさばいてくれます。そんなところは栃木でもまねをしてもいいなと思いました。(商業コース：男生徒)

栃木の店の工夫として、若い人もお年寄りにも来てもらえるように品揃えを工夫しているのがよかった。また、栃木の多くの店で、観光客がたくさん来るようになればもっと商売は繁盛するだろうと言っていました。品評会で金賞を取ったお酒などがあるので、もっと宣伝するといいと思います。(商業コース：女生徒)

自分は今の時代に生まれていて、生きていてよかったなあとと思います。だから、世の中が戦争のない平和な暮らしになるといいと思います。(平和コース：男生徒)

私たちは今、平和な世の中で生きているけれど、その裏にはたくさんの尊い命が犠牲になった過去があったということを改めて実感しました。私たちも、与えられた尊い命を無駄にしないように、生きていきたいと思いました。(平和コース：女生徒)

戦争というものがどんなに怖いものか、また、どんなにつらいものか分かった。自分の大事なものがなくなってしまうととても悲しいと思う。それなのに与那覇先生はそんなことに負けないで生き続けているということがとてもすごいと思いました。命は本当に大切なことだと伝えてくれました。私たちもこれから、平和な社会を築いていこうと思います。(平和コース：女生徒)

栃木駅や市内を調べてみると、標示が日本語ばかりなので外国人にとって見るとよく分からないと思う。この点、京都はさすがに国際都市だけあって外国語の標示が多くあった。だから、栃木市も道路標識や観光スポットに外国語の標示を増やしたり、外国人の案内係をボランティアで募ったすると外国人に優しい町になると思う。また、市内に在住する外国人のために日常生活で利用する店などを載せた地図やパンフレットを外国語で発行するという工夫をするとういと思つた。(国際理解コース：男生徒)

修学旅行で京都に行ったとき、八つ橋という和菓子は誰もが知っています。栃木の和菓子にはこのように誰もが知っているものがあるか分かりません。私は、栃木のいちごやぶどうを使った和菓子で小さい子からお年寄りまで知られるような和菓子があればいいなと思います。栃木の名産品と何かをプラスすることによって栃木らしい味を出せるかもしれないからですこれから先、和菓子を残していくには昔からの伝統と現在の流行を調和させていってはどうかと思いました。(食文化コース：女生徒)

私たちは、栃木と京都の両方の漬け物を調べて、京都には夏・冬それぞれの漬け物があり、季節に深く関わるものがあることが分かりました。また、地元での野菜を生かして漬け物を作っていました。栃木県の特産物はたまり漬けです。そのたまり漬けや他の漬け物をもっと全国的に有名にし、京都のように観光客の方々にたくさん買ってもらって栃木市の活性化につながれば良いと思いました。(食文化コース：女生徒)

私たちは、京都と栃木を結ぶ創作菓子を作りました。それぞれの食文化にふれ互いの良さを見つけました。栃木には全国的に有名な名品は少ないけれど、栃木の特産品や風土を生かしてどんどん良さを知ってもらえるように町全体で町おこしが必要だと思いました。（食文化コース：女生徒）

市内の河川の水質を調べてみると琵琶湖の水質よりかなり汚い河川がある。昔、祖父の代の頃はその川で泳いだという話を聞いたことがあるが、今では信じられない話だ。これから私たちにできることは、川にゴミを投げたりしないことや家庭から出る排水のなかに米のとぎ汁があるが、今まで意識していなかったが河川をかなり汚す原因になっているので、直接流さず植木などに与えるようにして川を汚さない工夫をすることが大切だと思った。（環境コース：男生徒）

◎生徒のまとめた報告書



V. 成果と今後の課題

1 成果

- (1) 修学旅行を「教育目標」(進んで学ぶ生徒)、「本校の目指す教育」や1年次からの「総合的な学習の時間」との関連を図り系統性や発展性を考慮したことにより本校教育における修学旅行の位置づけや教育的意義が明確になった。

(2) 活動班を「個々の課題を解決するための班」と「自由行動をする班」の2種類を編成し、そのねらいを明確にしたことにより、班の活動の意義がよく理解され生徒が主体的に活動することができた。

(3) 事前の活動での課題意識を高め、事後の指導においてもテーマに即した調査・体験した内容を提言としてまとめるなどの意図的なまとめをしたことにより、「ふるさと」や「自分」を見つめ直すことにつながる成果が得られた。

○琵琶湖の環境調査をしたことで、改めてふるさとの環境問題の意識が高まり、栃木市の川にかなりの汚れがあることに気付き、家庭から出る米のとぎ汁などをむやみに流さないようにしたいと考えた生徒。

○商店街での職場体験を通して人と人との交流ではあいさつがいかに大切かを再認識して、これからあいさつがしっかりできる人になっていくという自分の生き方を見直した生徒。

○国際都市としての京都を実際に見たり外国人へのインタビューなどを通して自分の町が今後、国際化していくことの必要性を感じた生徒。

○国際平和ミュージアムで戦争の悲惨な現状を調査したり戦争体験者の話を聞くことを通して平和な社会の大切さを意識し、自分の在り方を見つめた生徒。

○古都・京都で歴史ある美しい町づくりがどのように行われてきたかを学んできて自分の地域にもよい歴史があることに気付き、栃木市について見直そうとした生徒。

○京都では伝統的な和菓子作りの技術が今でも伝承され、それをこれからも守ろうとする地域の人達の姿勢を学んできて、栃木においても地元の食材を生かした漬け物や和菓子作りの必要性を感じた生徒。

2 今後の課題

(1) 1年次からの総合的な学習の時間で取り組んできた内容を深化・発展させる場に修学旅行を位置づけたことにより、3年間を見通した活動をしていくことの必要性を感じた。今後、本校の教育全体の中での意義やその位置づけを明確化をしていくこと。

(2) 今回の修学旅行では、学級の枠を越えた「個々の課題を解決するための班」(「体験活動の班」)と学級を単位とした「自由行動をする班」の2種類を編成したが、それぞれの事前活動の時間と場が必要になった。そのため、事前活動の時間を生み出すのに苦労した。今後、事前活動の時間の有効的な取り方や活動のさせ方を工夫していくこと。